

身延高校と山梨県立大学の連携講座

山梨県立身延高等学校

地方創生★ 政策アイデア コンテスト2017

チームラボ賞

<https://contest.resas-portal.go.jp/2017/>



MINOBU HIGH SCHOOL

東大（赤門前）で…



MINOBU HIGH SCHOOL



MINOBU HIGH SCHOOL

高大連携講座



二戸教授と伊藤准教授による指導



二戸教授・兼清准教授・依田さん（大学生）の指導



兼清准教授と矢野さん（大学生）の指導

H29年度は、QRコードを利用した取り組みで「地方創生☆アイデアコンテスト」で入賞（全国5位）しました。また、山梨県おもてなしのやまなし表彰もいただき、これまでの活動が全国レベルで評価されました。



県立大学飯田キャンパスにて二戸教授と



おもてなしのやまなし表彰式（後藤知事より）

実施内容と回数（H29）

| 回数 | 内容 |
|-----------|-------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 未来の私、未来の身延（峡南地域） |
| 第2 ～3回 | 私たちがつくる新たな物語 今年度の活動内容を考える |
| 第4 ～9回 | 活動内容の進捗状況について （含：フィールドワーク） |
| 第10回 | 「発表」 |

目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

生徒の感想



コミュニケーション能力が向上した。知らない大人と話をするのがいやだったけれど、最近では普通に話せるようになった。

初めの頃はあまり楽しくなかった。でも自分たちが楽しいように活動すればするほど楽しく、成果も好評だった。書き切れないほど、たくさんのことを学びました。



町の魅力を再発見した。町には自分が知らない魅力がまだまだ沢山あることに気がついた。

活動内容を決めるまでが大変だった。何をしたら地域貢献につながるのかが難しかった。また、動画作成は、視聴者を納得させる映像の作り方を学んだ。

平成29年度のまとめ

答えのない課題に対して、集団で考えをぶつけながら、よりよい解を見いだす活動を通じて、「0から1を作り出す力」「一歩踏み出す力」を身に付け、生きる力の獲得を目指し活動している。今年度は、高校生の考える地域貢献策（2案）を実践して、専門的な力が無くても高校生が実現できる地域貢献を考えた。（いずれも生徒自身が主体的に取り組んだ。）

研究テーマ ①QRコードを利用した身延町観光PRについて。

②身延まんじゅうを題材にした町のPR動画の作成。

“政策アイデアコンテスト”での受賞や“やまなしおもてなし表彰”などで、自分たちの取り組みが実社会に対し何かしらの形になっていることが実感でき、生徒は大きな達成感を得ている。また、このような取り組み事例は全国的にも希有である。何よりも「自分の住んでいる町を少しでも良くしたい」という強い気持ちで、毎回の講座や課題に熱心に取り組んだことは大きな成果である。

生徒は、この講座に確かな手ごたえを感じている。年代や環境の違う人とのかかわり方、グループでの協働、地域貢献策を実践すること。これにより、自分と自分の生活する町（社会）とのつながりの深さ等を再確認している。そして仲間を作って集団で行動すれば、少しでも環境が変えられることを知った。現実社会では、問題解決のための方策を考えても、それが実現される機会は非常に限られている。その点、意欲を持って主体的に取り組むこの講座の価値は計り知れない。